



気象・防災情報を活用して身を守りましょう

9月は台風などによる大雨の被害が起こりやすい時期です。
「自らの身は自ら守る」ために、気象・防災情報を活用しましょう。

警戒レベルと気象・災害情報

警戒レベルごとの気象情報（警報等：気象庁からの情報）と、防災情報（避難情報等：市町村からの情報）は下記の通りです。

警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警報等	警戒レベルに相当する 気象庁等の情報 キキクル (危険度分布)	指定河川 洪水予報
5	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 <small>※必ず発令される情報ではない</small>	大雨 特別警報	災害切迫	氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難！>					
4	危険な場所から 全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示	土砂災害 警戒情報	危険	氾濫危険情報
3	危険な場所から 高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難	大雨警報※ 洪水警報	警戒	氾濫警戒情報
2	自らの 避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。		大雨注意報 洪水注意報	注意	氾濫注意情報
1	災害への心構えを 高める		早期 注意情報 (警報級の 可能性)		

避難は警戒レベル4の段階までに完了を

警戒レベル5相当の情報（大雨特別警報や緊急安全確保など）が発表されたときは、災害の危機が迫り、すでに避難が難しい状況が想定されます。テレビやインターネットで流れている情報を正しく理解し、行動に移しましょう。



ポイントは「早めの対策、早めの行動」

地震と違い、大雨災害の場合は予測が可能なため、事前に対策・行動することで身を守ることができます。

最近では、半日から5日後の間に大雨が予測されるときに、「早期注意情報（警報級の可能性）」や「線状降水帯情報」などの注意を呼びかける情報が発表されます。ニュースや天気予報でこれらの情報を耳にしたときは、早めの対策・行動を検討しましょう。



リアルタイムに正確な情報を

災害時は、正しい情報をリアルタイムで得ることが重要です。気象庁では、大雨や洪水による災害（土砂災害・洪水・浸水）の危険がどこで、どの程度迫っているのかを地図上に色分けしてリアルタイム表示するサービス“キキクル”を提供しています。

パソコンやスマートフォン等で簡単に確認ができるので、ぜひ活用してみてください。



“キキクル” はこちらから

